

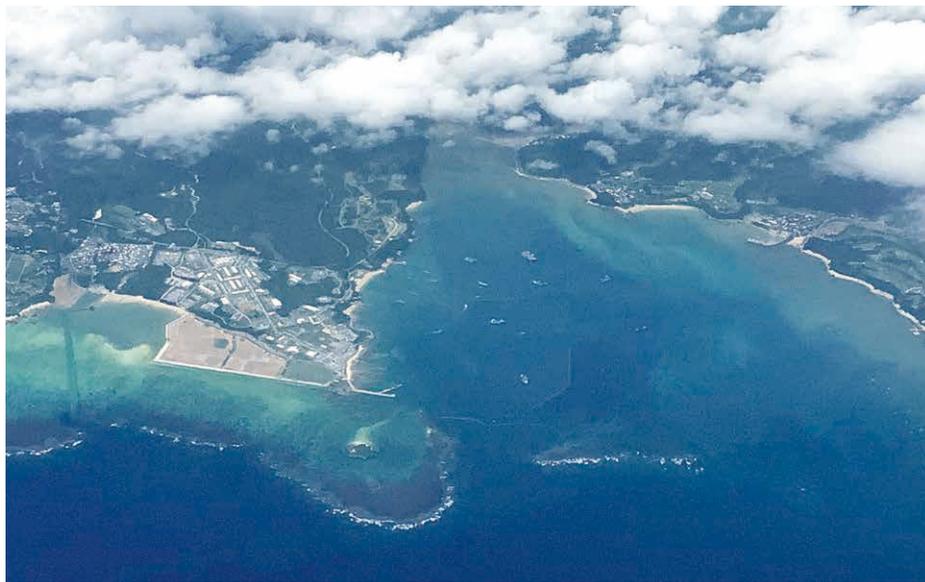
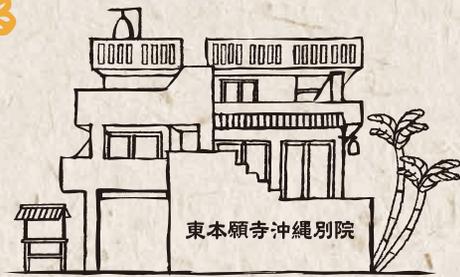
ハイサイ沖縄

11

Nov. | 2021
沖縄開教本部通信
vol.96

※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと

- 目次
- 第四回 「私にとっての沖縄の学びとは」 尾畑文正
- 沖縄はいま! 「沖縄振興予算が3千億円割れ」
 - 沖縄青草講
 - コラム 「全国の御同朋の皆さまへ」 照屋 隆司



埋め立てが進む辺野古と大浦湾

第四回「私にとっての沖縄の学びとは」

同朋大学名誉教授 尾畑文正

今回が最終回となる。私にとって沖縄に真宗を学ぶことの意味を確認したい。私の課題は空理空論でなく現実に関わる真宗の教えに学ぶことである。親鸞聖人も現実を離

さなかつた。『正信偈』には「煩惱を断ぜずして涅槃を得る」とある。煩惱とは「煩は、みをわずらわす。悩は、こころをなやます」(唯信鈔文意)とあり、私たちの生活そのものである。その現実の生活から生きるこの意味を問う。それが浄土真宗である。

それがなぜ沖縄であるのか。それは私の営みが沖縄の現実として表れているからである。沖縄の負の現実とは沖縄の問題ではない。沖縄を構造的に差別する「私と私の世界」の歪みの問題である。そういう認識は歴史的事実であると共に、『歎異抄』で「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は(略)そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまこと」と説く真宗の教えに繋がる問題である。

沖縄はアジア・太平洋戦争では本土防衛の「捨て石」、敗戦後は二十七年間のアメリカ

の占領、その後は巨大な軍事基地を負わされ、生命と生活を脅かされ続けている。さらには辺野古に二本の滑走路を持つ軍事基地建設が行われ、ジュゴンの生活領域である辺野古沖も、サンゴ生育の大浦湾も、沖縄の美ら海は満身創痍である。それら一切は沖縄が望んだことではない。

沖縄は「命こそ宝」の島である。その島を標的にして日米両政府が「軍事」の島を作り続けている。現在は与那国島、石垣島、宮古島なども軍備増強の渦中にある。軍事基地があるとは有事の際に最も攻撃を受ける場所となる。沖縄に対する「捨て石」は現在も継続している。この沖縄を犠牲にする構造的な差別に向き合い、どうすることが人間を回復する道であるのか。

私たちは問われている。その問いは真宗門徒として念仏もうすことと別のことではない。なぜなら南無阿彌陀仏は闇世を照らし出す光であり、私を真実の国に呼び戻す声である。だから南無阿彌陀仏と念仏もうすことは、自ら南無阿彌陀仏の名となつて衆生を救わんとする阿彌陀仏の本願の心に出遇い、構造的差別に加担する我が身を知り、その本願の心に立ち返り構造的差別を克服する歩みを課題とすることである。

【沖縄はいま!】 「沖縄振興予算が 3千億円割れ」

沖縄県の予算は、戦後の歴史的事情、本土から遠隔にある地理的事情、亜熱帯地域にある自然的事情、米軍基地が集中している社会的事情など「特殊な諸事情」を踏まえ、「沖縄振興予算」と呼ばれている。一九七二年、「復帰」後の本土との格差是正や沖縄経済の

自立のための施策で、米軍基地の受け入れと引き換えになされているわけではない。離島振興法や山村振興法、北海道開発法と同様に、「国土の均衡のある発展」を目的とした地域振興法の一つとして制定されているものである。他県にはない仕組みで、沖縄県の予算が多く見えるのは内閣府沖縄担当部局が一括して計上する仕組みになっているからである(沖縄県HP参照)。

予算が三千億円を割り込んだ。本年度比二〇八億円減である。引き下げの主因は道路漁港などの社会資本整備の関連費用の減額である。玉城デニー知事は「業界の皆さんと協力して頑張ってきたのでいささか残念なおもいである。しかし、問題は予算の中身なので、それが今後どのように影響を与えるのかを分析したい」という。辺野古の新基地建設反対を貫く沖縄県への政府の冷遇との指摘もある。

「沖縄青草講」

八月二十六日、二十七日の二日間(十二〜十七時)、「沖縄青草講」が開催された。「青草講」とは大谷専修学院を卒業した方たちが主催する同窓会「青草人の会」が全国各地で開催する勉強会である。沖縄県内の有教師は、ほぼ専修学院卒であるので、別院職員を世話役に毎年開催されている。しかし今コロナ禍の中、沖縄県は長い緊急



事態宣言下であり、また、毎年講師を務めていただいている教学研究の中山善雄先生のおられる京都府も緊急事態宣言が発令されていた。そこで今回はリモートでの講義という形をとった。その結果、これまでの開催方法

では県内の僧侶だけの参加であったが、今回は全国の青草人(卒業生)も参加できるようになり、有縁の方々と交流し、ともに学習ができる有難い機会となった。講題は「観経―是梅陀羅の課題」で、あらゆる差別に通ずる課題を学習した。「青草講」としては初めての試みであったが、参加者からは肯定的な意見も多く聞かれ、今後導入するに値する取り組みとなった。

「全国の御同朋の皆さまへ」

南無阿弥陀仏の教えをいただいでいく人生は、自らに出会い、仏に出遇っていく歩みではないかと思えます。この道に立っているのは、親鸞聖人の教えを聞き継ぎ、語り継ぎ、どうか聞きぬいて欲しいと私に願われたすべての御同朋の皆様のおかげです。

こうして諸仏に守られ、導かれながら自身に出遇っていく道程は、三者三様、千差万別なのでしょう。お一人おひとり、その人ならではの道のりが、その場で受け入れられ支えられていく。すべての人に開かれた聞法道場を、私もまた門徒の一人として御同朋の方々となりを合わせて、守り継いでいきたいと思えます。

話は変わりますが、沖縄は先の戦争で壊滅的な状況となりました。そして戦後は基地の島となりました。その重圧は現在も変わることなく、理不尽にも辺野古の海の埋め立てが続いています。さらに、対中国戦争を見据えた自衛隊のミサイル基地が石垣島、宮古島、沖縄島そして奄美大島と、琉球弧全体に広がりつつあります。沖縄は依然として、国土防衛の捨て石とされ、深刻な人権侵害と環境破壊が続いています。これは、日本の問題です。戦後日本の本筋の姿が、沖縄に凝縮されています。これは日本人みんなで考えていく問題であることを、どうかご理解ください。

沖縄別院 総代 照屋 隆司